



おすすめBOOK 『「限りなく少なく」豊かに生きる』
ドミニック・ローホー：著 原秋子：訳
講談社 価格(本体1200円+税)



フランスに生まれる。ソルボンヌ大学で修士号を取得し、アメリカのミズーリ州立大学、日本の仏教系大学で教鞭をとる。アメリカと日本で学んだヨガ、禅寺での修行や墨絵の習得などをとおし、日本の精神文化への理解を深める。日本でもその著作は大きな支持を得ています。より質の高い人生のためにシンプルに生きる術を学べます。

スタッフ・つぶやき

◆今年の10月から横浜市川葬典でお世話になっております。私の故郷は長野県の安曇野市。田んぼだらけの田舎でのんびりと育ちました。その後三重県の大学を出て、神奈川県冠婚葬祭の会社に勤め、そこで初めて葬儀業界に触れました。初めはご遺体を見るたび、ご遺族と会うたびに胸が締め付けられるような思いでした。しかし、ある先輩社員とある方をご自宅へとお送りした際の、そのお別れやご提案はとても温かく優しいものでした。私は、私が触れたその温かく優しいものをご遺族様に感じて頂けるような人間になれるように日々頑張りたいと思っています。(岩淵 智康)

◆市川葬典へ入社して約2カ月半、今の生活のリズムに体が慣れてきました。山がすぐ近くにあり、本社からは岐阜城が見え、長良川の風景も綺麗で、働いてとても気持ちが良いです。葬儀の仕事も過去に経験あるものの、中途半端な感じでやめてしまったので、1から勉強し直しています。葬祭ディレクターの資格を持っていないので、まず2級からの取得を目指します。社長のこやかな笑顔と次長の元気な笑い声が聞けて楽しく、みんなでの会話もつっこみが満載で面白いです。いつかみんなで旅行に行きたいです。そして集合写真を撮りたいです。(小川 広子)

hitomi 飛騨と美濃を愛する大人の情報紙 NO.16
「岐阜のこのひと」に掲載されました。

亡くなった人を身近な親族だけで見送る家族葬。今でこそ知られる葬儀のスタイルであるが、全国でもそれを先駆的に始めたのが市川葬典の市川智己さんである。「家族の愛と絆を深める時間と空間」をコンセプトに、家族葬専用の家「FUNEAM(フューネアム)日光庵」を新築したのは平成19年のこと。すべての冠婚葬祭が家で営まれていた時代のように、靴を脱いで上がり、畳敷きの広間に祭壇を備え、その家に家族が宿泊できるように設備を整えた。悲しみの場ではあるものの、そこに故人を弔うために集った親族の語らいが生まれ、

故人を偲びながら絆を深めることができる空間となっている。昭和元(1926)年創業の同社は社葬や合同葬など大規模な儀式を手掛けてきた葬儀社。ところが、時代の流れとともに葬儀の規模は縮小され、会社も経営危機に陥った。この時、市川さんは美容師として別の道を歩み始めていたが「会社の歴史を途絶えさせるわけにはいかない」と一念発起。料金を明確に、サービスを大切に、他業種の経験から培った大胆な改革で葬儀の新しい形を打ち出した。住宅街にある日光庵は午前中だけカフェとしても営業し、今や地域のコミュニティーの場としても欠かせない場所となっている。



編集事務局
岐阜県岐阜市本町
3丁目18番地
0120-00-4243

<http://www.ichikawa-souten.jp> ☆【岐阜市家族葬】で検索!

「やわらぎの家族葬」貸切型セレモニーハウス
FUNEAM
市川フューネアム

心にのこるご葬儀を……
株式会社市川葬典
〒500-8034 岐阜市本町3丁目18番地
TEL 058-262-0042 FAX 058-265-3644

次号は2014年4月1日発行です **お楽しみに!**

あいクラブ通信 Vol.8 Winter

発行：26年1月6日



写真：ブルーシクラメン(セレンナーディア) 花言葉/恥ずかしがりや 撮影：市川雅清

天皇皇后の「葬送方法変更」発表に込められたメッセージ

天皇皇后両陛下が、自らの「お気持ち」として葬送や御陵の在り方を発表されたことについて、神道学者の高森明勲氏は「極めて異例のこと」と重く受け止める。「現行憲法下では、皇室制度の法的な整備は政治家に委ねるほかない。しかし、現実には戦後これまで皇室の在り方について真剣に考えようとした政治家はほぼいなかった。その結果、陛下ご自身が御心を砕かれることになった。その重さを、政治家および国民は、厳粛に受け止める必要がある。」と述べています。発表の仕方も異例で、発表の前日宮内庁から記者会に配られたのは、『今後の御陵及び御喪儀の在り方についての天皇皇后両陛下のお気持ち』という発表文など、参考資料を含めるとA4判で16枚にも及ぶもので、両陛下の強い覚悟が窺えました。「葬儀は火葬に」「墓は小さ目に」…それは、天皇皇后陛下が国民に対して提示した「エンディングノート」です。今回の発表は、皇室の行事である「御喪儀(そうぎ)」についてされたものであり、国事行為にあたる「大喪の礼(たいそうのれい)」について行われたものではありません。大喪の礼は内閣の責任で行われます。天皇皇后はいま、現政権に対していろいろなお気持ちを抱かれており、今回の発表もそのことが影響しているのではないかと取り沙汰されているようです。

DETA
カメラ：キャノン EOS 5D Mk II
レンズ：EF 100 F2.8 L IS MACRO USM
絞り：F6.3
ホワイトバランス：晴れ
シャッタースピード：1/200
ISO感度：400
補正：0

目次

- P-1 であいさつ
- P-2 今を大切に生きるための終活生前準備講座
- P-3 心にのこった…ご葬儀®
- P-4 おすすめBOOK 『「限りなく少なく」豊かに生きる』
スタッフ・つぶやき
お知らせ

自分の人生を自分らしく、美しく完成させるための…終活「生前準備」講座 市川雅清

実践講座 第2章

今を大切に生きるために…

(4) お葬式その2.

葬儀の形骸化と無縁社会

日本人は、今の仏式葬儀に飽きてきている？それには、宗教の問題もあります。

「千の風になって」が流行ったところから、この問題がクローズアップされてきました。仏式葬儀というものが、一種の制度疲労を起こしているような気がします。よく「葬式仏教」とか「先祖供養仏教」などといわれますが、日本の仏教が葬式と先祖供養によって社会的機能を果たしてきた事実は認めなければなりません。でも最近の流れを見ると、日本人が葬式仏教にちょっと飽きてきているのではないのでしょうか。

特に、これから団塊世代の方々が喪主になり、あるいはお亡くなりになって葬儀をあげるようになってきます。団塊世代というのは、個性を非常に追及してきた人たちですから「自分の終わり方は仏式葬儀でいいの？」と考える人も少なくありません。やはり、その方らしい葬式というものを希望される方が多いような気がしています。

また、葬儀と法事に疑問や不満を感じている方も多いよう

です。お寺さまが、葬儀や法事にみえても説法も一切なしで、お経のリーフレットを配って一緒に唱和はしますが、お経以外でのお話は数分程度でしょうか。お布施をもらって「どうも」と帰ら

れます。「宗教者としてのオーラが感じられない！」と、心の中で叫んでみえる方がいるのではないのでしょうか？

「無縁社会」という言葉が大きな反響を呼びました。2010年に放映されたNHKスペシャルの番組タイトルです。それは、コミュニティが崩壊しつつあると

いうこと、そして人間関係が希薄化してきているということです。

特に、都会の団塊世代からは「しがらみを捨て、無縁を求めてきた。家制度や親戚づきあいなどがとくに崩壊しているのに、それらの再認識を強いられる葬式が、めんどくさい、うっとうしいと感じている。」という声も聞こえてきます。

しかし、葬式にはもともと①社会的な処理、②遺体の処理、③靈魂の処理、④悲しみの処理の四つの役割があるとされています。

いまの日本人にとっての信仰とは、宗教を信じてはいませんが、宗教を感じている。あるいは自然の中に人間を超えるものの気配を感じているということではないのでしょうか。それは一種の「心の遺伝子」として日本人の信仰心を形づくってきました。

「仏教でなければ、靈魂は鎮められない。浮かばれない。成仏できない。」などと思込んでいると、日本の葬式仏教はたいへんなことになってしまうという危機感をもっている人も少なくないと思います。

葬式をめぐる環境が激変しているいまが、葬儀を文化として残せるかどうかのターニングポイントです。危惧すべき重要な課題がそこにあるのではないのでしょうか。

皆様も一緒に考えてみてはいかがでしょうか？

次回、第9号（来春4月号）の予告 実践講座（5）お葬式その3.

「葬送」という言葉があります。「お葬式」から「お送式」へ、お葬式の仕方を考え直してみましよう。お楽しみに…



●自己紹介（いちかわまさきよ）
1955年生・B型・おうし座
一級葬祭ディレクター
技能審査協会審査官
ライフ終活アドバイザー
趣味/写真・登山・心学研究
座右の銘/単純、明快、矛盾なし
大切にしているもの/見えないもの、見えないところを大切に

心にのこった…ご葬儀 ⑧

一緒に遊んでくれた…「ウルトラマンと仮面ライダー」ありがとう！



脩君がパパの車でお家に帰ってきたのは夜でした。辛かった治療から解放され、まるで眠っているかのように、穏やかでかわいいお顔でした。パパもママも、彼が亡くなったことを深く受け止める時間の余裕もなく、お寺様やあちこちへの連絡、そしてお葬式の日時や式場の決定などに追われていました。その慌ただしさが大きな悲しみを押しとどめていたのでしょう。

そして、深い眠りについた脩君のかたわらでは、お兄ちゃんがいつものように「ごっこ遊び」をしていました。まるで二人で遊んでいるかのように…

式場に決まった「本荘月光庵」は、脩君のパパが施工して下さった家族葬専用ホールです。一時に大勢の方のご弔問は、混雑が予想されたので、お通夜を、幼稚園のお友達は5時から、一般の方は7時から、パパとママのご友人達は9時からと3部に分けてお参りしていただきました。

祭壇の上には、大好きなウルトラマンと仮面ライダーが脩君を見守っています。几帳面だった脩君のことを想い、一つひとつ心を込めて飾りました。そして、彼はいつも「お母さんの色は赤だよ！」と言っていたので、真っ赤なバラで作ったハート型のリースを「ママの愛を込めて」お供えしました。二つの大きなお菓子盛りは「おじいちゃんとおばあちゃん」そして「パパとお兄ちゃん」からのプレゼントです。

式場の二階には、幼稚園のお友達のために「キッズルーム」を用意しました。中央には脩君の写真を飾り、辛いこと苦しいことを我慢したときにご褒美で買ってもらった、お気に入りのおもちゃでいっぱいになりました。まるで脩君の「子ども部屋」で、お友達がいっしょに遊んでいるかのようです。お部屋の真ん中の大きなテーブルには、お菓子の山！そして、「脩君と遊んだこと、忘れないでね！」と、彼が大好きだったお菓子「ハイチュウ」を想い出と一緒に持って帰ってもらいました。

お通夜には松山千春さんの「生命（いのち）」という曲をお流ししました。

パパは脩君を見送った後、何度も何度もこの曲を聴かれたそうです。

ママは脩君がいなくなったことは淋しいけれど、食べることが大好きだった脩君が、食べることができない苦しみや辛さから解放された事に安堵されている様子です。

ママより
あきらめずに最期の最後まで頑張ってくれました。そんな姿に私たちが励まされ、脩君から教えてもらったことは数知れず。例え限りある命であっても、小さな体で精一杯生きてくれた脩君は家族の誇りです。新しい星の国でもたくさんお友だちができ、元気に飛んだり跳ねたり楽しく過ごしてくれることを祈っています。
久美子

「生命」いのち 作詞・作曲 松山千春



この子の人生を 見届けられるなら
最後まで見守って あげたいと思うね
おやすみ 今日の日が
明日もいい子だね
あどけない寝顔だね
夢見ているのかな
頬寄せて 頬寄せて
どうかすこやかな
毎日を 毎日を 与えて下さいね

微笑みも涙も
全てをこの胸に
あざやかにやきつけて
しまっておきたいね
いつの日か一人で歩き始めるのだろう
今はまだ小さな手 幸せつかめるね
頬寄せて 頬寄せて
どうかすこやかな
毎日を 毎日を 与えて下さいね
この子の人生を 見届けられるなら
最後まで見守って あげたいと思うね